

(イ) 年間における風速の出現頻度

各ケースの風環境評価は、図 4.8.3-5(1)～(3)に示すとおりである。

a. 計画建築物建設前

本ケースは、本事業の計画建物の工事着手前の計画地周辺の建物状況を想定している。建設前の計画地周辺においては、全ての地点で領域 A あるいは領域 B の風環境が見られる。領域 B が見られるのは、主に県道 140 号川崎町田線沿い、JR や京浜急行線の高架付近である。計画地近傍においても、南側の幹線道路日進町 18 や広場等で領域 B が見られる。なお、領域 C の地点は見られなかった。

b. 計画建築物建設後

本ケースは、本事業の計画建物が完成した時期の計画地周辺の建物状況を想定している。建設後の計画地周辺においては、計画地北側を中心とした複数地点において領域 A から領域 B に変化するが、領域 C の地点は見られなかった。その他、計画地南側の広場等、領域 B が領域 A に改善する地点も見られる。計画地内では、全ての地点で領域 A となっており、領域 B、領域 C の地点はみられなかった。

c. 防風対策を施した状況

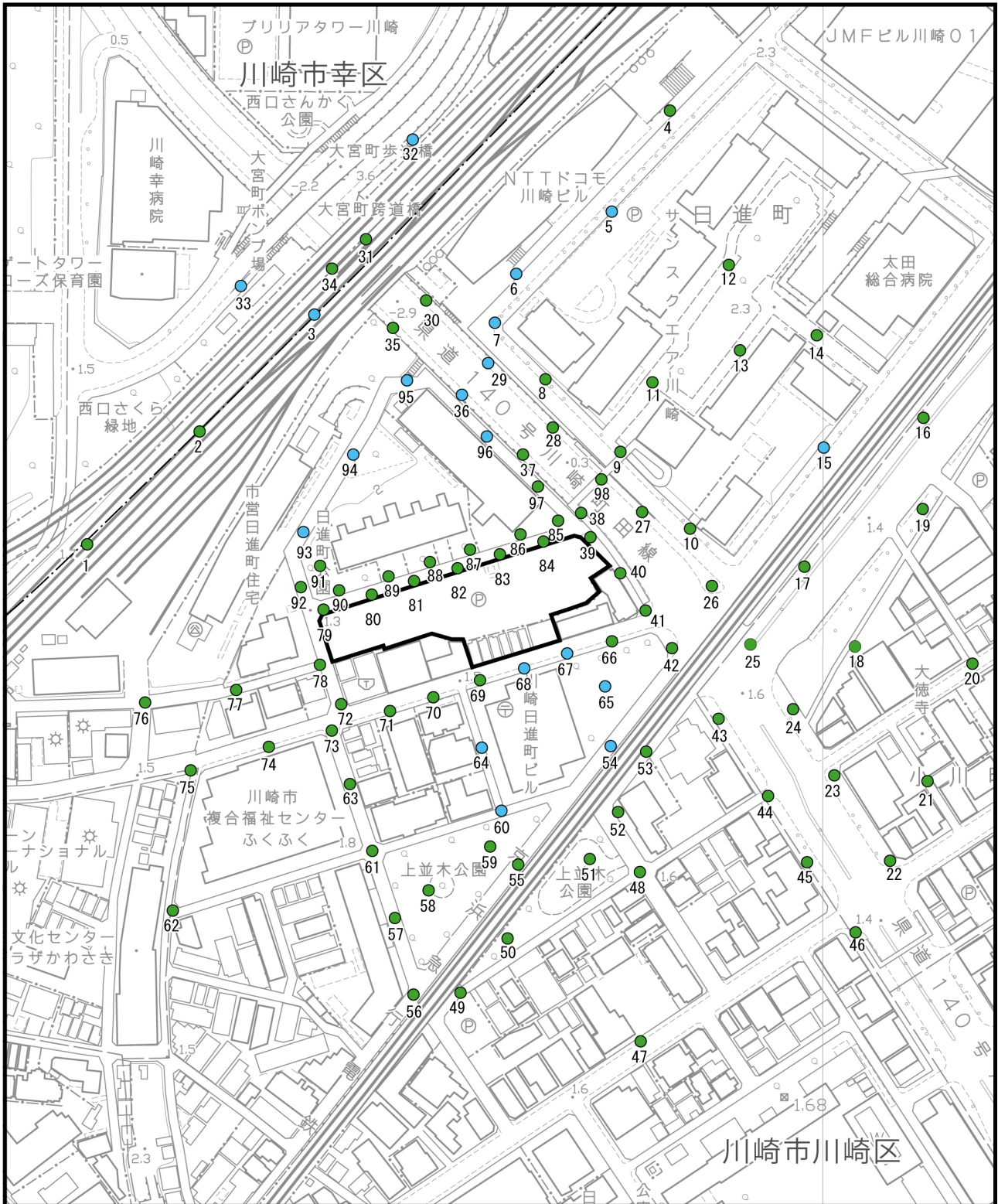
本ケースは、計画建築物北側に防風効果のある樹木による防風対策を施した場合の風環境を想定している。防風対策を施した場合、建築後に領域 B に変化した地点のうち、計画建築物北側の複数の地点において領域 B が領域 A に変化するると予測する。

イ. 評価

計画建築物の存在により計画地及びその周辺の風環境（風向・風速）は変化すると予測する。

風環境変化による影響は、建設後においても領域 C の地点は見られなかったが、計画建築物周辺の複数地点において領域 B が出現する。植栽を考慮した場合、建築後に領域 B に変化した地点のうち、計画建築物北側の複数の地点において領域 B が領域 A に変化するると予測する。

さらに、計画地の周囲には大景木による植栽を行い、防風効果を持たせる等の環境保全のための措置を講ずることから、周辺地域の生活環境の保全に支障はないものと評価する。



凡例

- 計画地
- 区界

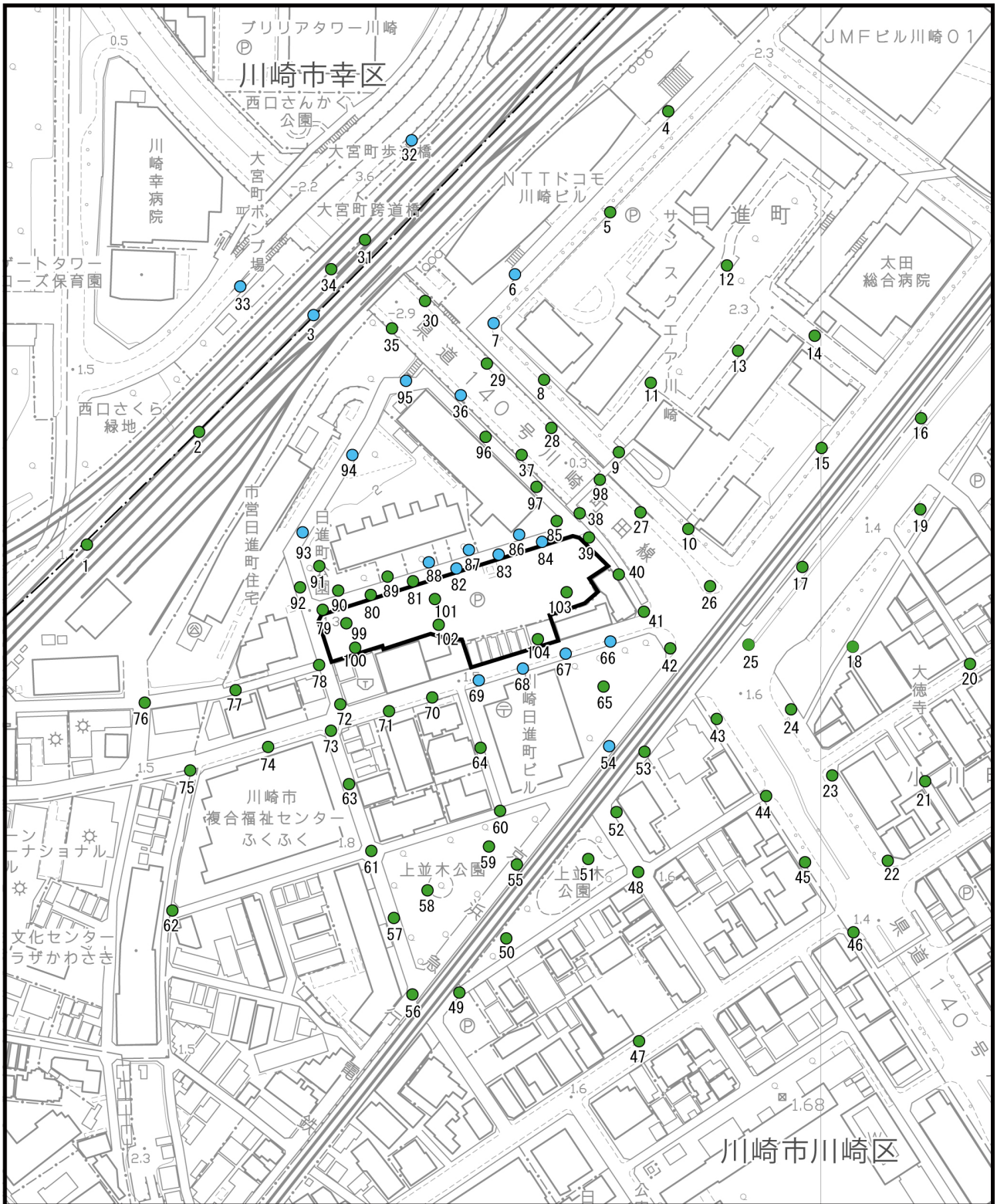
- 領域A
- 領域B
- 領域C
- 領域D



Scale 1:2,500



図 4.8.3-5(1)
風環境評価 (建設前)



凡例

- 計画地
- 区界

- 領域A
- 領域B
- 領域C
- 領域D

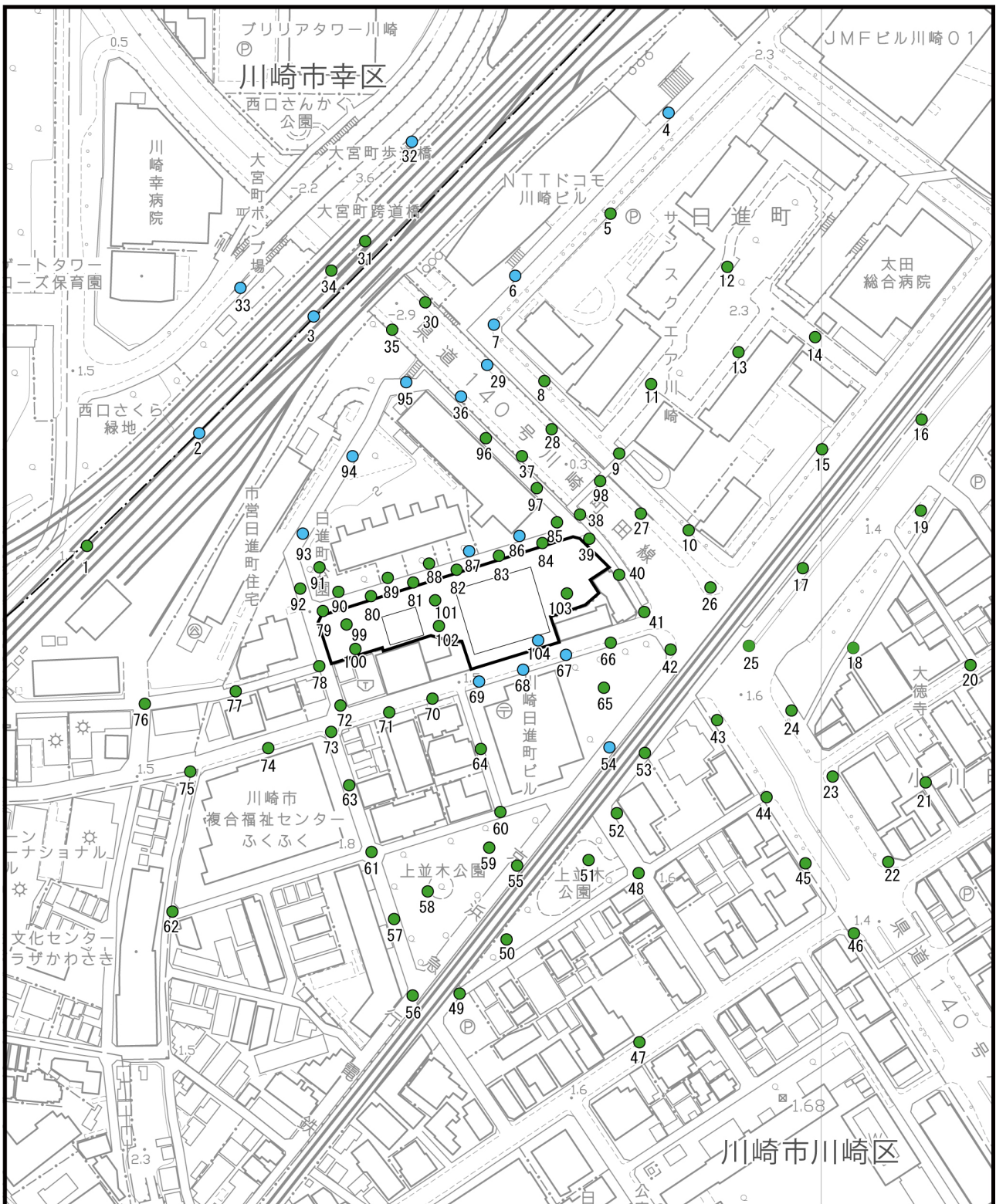


Scale 1:2,500



図 4.8.3-5(2)

風環境評価 (建設後)



凡例

- 計画地
- 区界

- 領域A
- 領域B
- 領域C
- 領域D



Scale 1:2,500



図 4.8.3-5(3)

風環境評価（防風対策後）